「10年前の思い出の一端」（抜粋・編集）　第12代校長　西野俊夫

日吉小学校創立50周年記念事業の思い出

（注：西野俊夫　昭和33年４月１日～昭和36年３月31日）

（注：新校舎落成・創立50周年記念年表

昭和33年４月２日　新校舎上棟式（工事継続）

５月20日　50周年記念・校舎落成記念協賛会結成

５月26日　ピアノ購入・到着

７月12日　旧校舎取り壊し作業

８月１日　移転校舎上棟式

９月19日　校庭地均し作業

11月１日　校舎落成及び50周年記念式典）

（略）着任してみると、校舎は前の年から増改築が進められており、校舎の右半分がきれいな姿で完成し、残る旧教室の移改築が続けられておりました。昔の面影をとどめぬような工事の完成をみたのは、その年の９月末でした。

校舎の増改築落成を待って創立50周年記念と校舎の落成記念式典を行うことは、私の着任前から話が進められており、〈具体的計画〉をということが着任早々に校下の有志から私に持ち込まれた話でした。

早速その準備に取りかかった訳ですが、この記念式典に際し、母校に寄せられた校下父兄各位、母の会、同窓会の皆さんのひたぬきな愛情を当時の職員12名、児童生徒325名は非常に感じたものでした。

この意義ある式典に際し、どんな記念事業をしたら良いかと数回の会合で相談した結果、その１つに校歌の制定をみた訳です。今もよい子たちが「緑に燃ゆるイワケシの…」と行事のたびごとに高らかに歌って愛校心・愛郷心を培ってくださっていることと思います。

（注：校歌制定：作詞／大塚盈　作曲／渡辺三郎）

（略）また、母の会、同窓会の皆さんが子どもの幸せを願い、子どもたちが夢に見ていたピアノを記念の品として贈られたことです。次代をになう良い子たちが、今もこのピアノで明るく楽しく合唱し続けてくれていると思います。

（注：日吉小中学校母の会と同窓会が地域住民に募金を呼びかけ、３２０人からの寄付によってピアノを購入）

その他、整地の終わったグランドにブランコ、鉄棒、回旋塔、回転シーソーなど遊具の贈りものもあり、全盛期の針田鉱業所そして校下父兄の深い教育への理解とご協力が充満されて式典を終えたことが第一の思い出です。（略）

『日吉小学校60周年・日吉中学校20周年記念誌』（昭和42年11月発行）掲載